

# たまたま

広報紙 48 号 2019年10月20日  
「TAMA市民塾」発行  
〒183-0056 府中市寿町1-5-1  
府中駅北第2庁舎6階  
多摩交流センター内  
TEL/ FAX 042-335-0111

## 小金井の“坂”を楽しむ

TAMA市民塾 茂木 優

JR中央線・武蔵小金井駅のすぐ東側を走っている小金井街道を300mほど南方向に行くと「坂」が始まる。ここは交差点名を前原坂上と呼ばれており、いわゆる<国分寺崖線>の端っこでこの坂をさらに下っていくと東西に流れる野川に突き当たる。この地形的な特徴から、小金井市のこの辺りでは何本もの“坂たち”が身を寄せ合い、独特な自然環境を作り出しているように感じる。

ただ坂は、いいことばかりではない。

\* 第一に、歩いても自転車を押しても体力を要する。特にお年寄り等には大変だ。

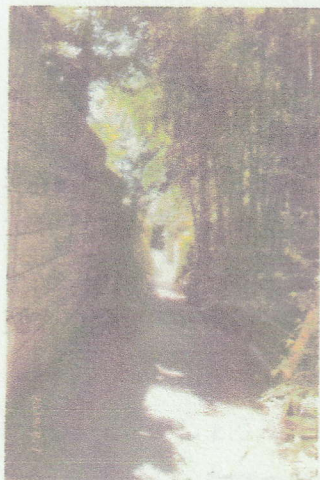
\* 第二に、坂道が多いと言うことは、平らな道のようにどこでも歩ける訳ではなく、坂上方向へ行くときにはどこか近くの坂を選んで行かなければならない。

と言ってみたが、この年になると最近、これが意外に嫌なことだけではないのに気付いた。

ここでいくつかの坂(自分だけで気に入っている)を紹介するが、それぞれが何とも言えない雰囲気を持っていて、坂に名付けられた名称の由来などを考えながら、昔の人達もこの坂を行ったり来たりしていたのかと思うと、過去のほんの一端に触れたような気持ちにもなる。



しかしながら今後は、現在のこの景観を作り出している崖線に沿って更に宅地化が進むと予想されるので、今のうちに坂の趣を楽しんでおこうと考えている。



念仏坂



質屋坂



ムジナ坂

## 講座：ふろしきを知る・活用する

講師：永井 直美

「ああ、ワインを包んだりバッグにしたり・・・」

これは、「ふろしき講師です。」と私が自己紹介したときのほとんどの方の反応です。中には「興味あります!」とか「使っています!」と答えてくださる方もちらほら。

ところが「ふろしきとは何のことですか?」と質問されたことはありません。誰もが知っている『ふろしき』なのに一般的に活用されていないのが『ふろしき』なのです。

家にあるのに使われないのは何故なのでしょう?

それは使い方がわからないから。使わなければその良さに気付くことはありません。確かにエコバッグなど現代の便利品に比べるとふろしきには『包む』『結ぶ』という『手間』がかかります。忙しい現代人はさまざまな面でこの『手間』を省いてしまいましたが、少しばかり立ち止まり振り返ると、ひと手間二手間をかけることから生ずる悦びや楽しみに誰もが気付くのです。



講座やワークショップに参加される方の多くは、最初は半信半疑。ところがひとつできるとあれもこれも試してみたいくなるようです。そして包み終わると満面の笑顔です。この笑顔に会えること、「これからはどんどん使いますよ!」の一言をいただくことがどんなに嬉しいことでしょうか!

ふろしきは大切な物を塵や傷から守り、複数を纏め、安全に包み運ぶための重さにも耐える柔らかい四角形の包み布です。繰り返し使え、不要な時には小さく畳め、しまう場所もとらない優れた暮らしの道具です。また、ふろしきの普遍性・柔軟性は『包む』『覆う』『敷く』こととともに、時には人の心に寄り添い、時には自分を表現するのです。

バッグのみならずインテリアや収納、防災にも。日々の暮らしの中で役立つ使い方をお伝えしたいと思います。

## 講座：誰にでもわかる宇宙開発

講師：北村 正治

宇宙開発についてお話しする講座が10月から始まります。月1回の6回講座です。「誰にでもわかる」がキーワードです。

宇宙開発には様々な側面があります。まず、「ゆめ」の実現です。これまでできなかったこと、できれば良いなと思っていたことが、実際にできるようになります。月は片側が常に地球に向いているので、地球から月の裏側は絶対に見られませんが、1959年に旧ソ連の探査機が月の裏側に回って写真を送ってきました。当時科学好きの少年だった私は、このときのニュースを覚えていますが、ヴェルヌのSFで読んだ月世界旅行は、1969年に実現しました。宇宙開発に「ゆめ」は欠かせません。少年や少女の心で聞いて頂ければと思います。ただし、宇宙開発には莫大な費用がかかるので、大人の講座としては、「ゆめ」だけでは済まされない面があるでしょう。

また、宇宙開発には「なぜ？」や「どのようにして？」などの疑問が付いてきます。人工衛星はなぜ落ちてこないのか？ ロケットはどんな仕組みで飛ぶのか？など。様々な技術的な話もできる限り分かりやすく進めます。

宇宙開発は、実用として役立つことも重要です。天気予報や衛星放送、カーナビなどは、毎日の生活には欠かせないものになっていますが、これらを支えている気象衛星や、放送衛星、航行衛星などはほとんど意識する必要はありません。このような「裏方の衛星」も紹介します。この分野では、我が国の衛星はほとんど外国製であり、外国のロケットで打上げられているという課題があります。また、衛星やロケットの残骸が宇宙に放置された結果発生した「宇宙ゴミ」は、近年大きな問題になりつつあります。

宇宙開発には大きな負の側面があります。第2次世界大戦中にドイツが開発したV2号ミサイル、これが現在のロケットの基礎になっているという現実があります。ロケットが強力な武器になることは、北朝鮮の例を見るまでもなく、常に心しておかなければならないでしょう。

今回TAMA市民塾の講師に採用されたとき、妻に伝えたとき、「お客さんは来るの？ せいぜい7~8人じゃないの」と妻に言われました。実は私自身も、語学や歴史、芸術、実技などが中心のTAMA市民塾で、どれだけ応募者があるのか心配でした。定員を超える応募があったと聞いて、まずは一安心しています。宇宙開発に関心がある人も少なくないと考えたいですが、はやぶさ2が小惑星の標本を採取したホットな話題や、今年がアポロ11号月面着陸50周年になるというタイミングに助けられたのかも知れません。

現在、TAMA市民塾は文系の講座や実技などが中心です。理系の講座がもう少しあってもよいのではないのでしょうか。できれば、この講座が、理系の講座が増える糸口になれば幸いです。そのためにも、皆様の理系に関する好奇心を満たすような講座にできれば、と考えています。

## 日曜講座の報告

第118回日曜講座を開催しました。(会場：多摩交流センター第2会議室)

実施日 2019年7月21日(日) 午後2時～4時

演題 「初心者のための“秩父観音巡礼” 10倍楽しむ旅の話」

講師 服部 文晴氏 西国三十三所札所委員会「先達者」

秩父三十四ヶ所観音霊場は、西国三十三ヶ所、坂東三十三ヶ所とともに日本百番観音に数えられており、室町時代の後期には秩父札所が定着したと考えられています。そして、江戸時代になると観音信仰は庶民に流布し、聖地巡礼の賑わいをみせました。

「男は坂東、女は秩父」「男は伊勢参り、女は秩父巡礼」と江戸の西方に位置する秩父巡礼が流行りました。勿論、行程の長さも影響しました。秩父には関所もなく気楽な旅として、女性は40歳過ぎに巡礼が許されたと言います。また、秩父は女性を拒否する札所はありませんでした。

豊富な資料と画像により、1番札所四萬部寺より結願寺の34番札所水潜寺までの大半を紹介して頂きました。また、途中秩父ジオパーク、わらじカツ井、宮沢賢治のお話も楽しめました。

31番札所観音院、高さ60mの普段は静かな流れの「清浄の滝」、雨量が増すと「龍が天上界へ上る時のように激しい瀧となる」と云うお話もありました。



服部講師のエネルギッシュな語り口とユーモアに引き込まれた2時間でした。

(文：駿河) (写真：菅井)

## 日曜講座の予定

2020年(令和2年)1月19日(日)

「アジアの今を読み解く」 講師：宮本謙介氏(北海道大学名誉教授)

アジアの経済・社会の動きに関するホットな話題で「アジアの今」をお話して頂きます。